

2016年3月期 第3四半期 決算発表 主な質疑応答

1. 第3四半期までの実績について総括してほしい。

新型CX-3及び新型ロードスターのグローバルでの台数貢献と、Mazda6、CX-5の商品改良モデルが好調な販売を継続していることから、グローバル販売台数は、対前年14%増の114万5千台と、第3四半期累計として過去最高の販売実績となりました。

収益面では、為替の悪化やお客さま対応費用の計上がありましたが、好調な販売と台数増に伴うコスト改善・原材料価格の低下により、営業利益は対前年で214億円改善の1,734億円と、通期2,300億円に対して順調な進捗となりました。

2. 通期見通しを据え置いたのはなぜか？

足元の主要国での経済環境変化に伴う自動車需要への影響や、為替・原油など金融市場の変動を慎重に見極める必要があることから、通期見通しを据え置きました。

3. 為替が円高に推移しているが、今期収益への影響は？

本日(2/4)時点の主要通貨の為替レートは、マツダの前提レートよりも円高に推移しています。現時点での今期収益への影響は30~40億程度のマイナス影響とみています。

しかしながら、SKYACTIVモデルの好調な販売継続及びコスト改善の進捗により、為替のマイナス影響を吸収し、今期2,300億円を目指してまいります。

4. 西欧での販売が好調だが、市場環境とマツダの好調な要因を教えてください。

西欧の需要は安定的に前年と同様の伸びがとっていますが、マツダは需要の伸びを上回る販売を継続しています。これは、昨年欧州に導入したMazda2およびCX-3など小型車の販売貢献によるものです。欧州での販売奨励金強化など競合環境は厳しいことが予想されますが、引き続き、正価販売方針を維持しながら商品力をベースに、西欧を含む欧州での台数成長に取り組んでまいります。

###